



2020年度 歯科技工士 生涯研修 基本研修課程

7月12日(日) 13:30~16:40
13:00 受付開始

岐阜県図書館1階 多目的ホール
〒500-8368 岐阜市宇佐4-2-1
TEL 058-275-5111

教養

13:30~15:00
「技工サイドからの
デジタル化の現状と未来」

専門

15:10~16:40
「歯科技工におけるデジタルは
我々をどこに連れて行くのか」

日技認定講師 陸 誠 先生

新型コロナウイルス感染症対策のため、例年より広い会場を確保してあります。マスクの着用及び会場に設置のアルコールによる手指の消毒にご協力ください

お申込みお問い合わせ 岐阜県歯科技工士会事務局

TEL 058-273-0106 MAIL gifukengi@khf.biglobe.ne.jp

略歴

1978年 大阪歯科学院専門学校卒業
同年 (株)クワタパindent勤務
1983年 (株)コアデンタルラボ横浜勤務
1988年 日本歯科技工士会認定講師
2006年 (株)コアデンタルラボ横浜 専務取締役
2010年 (株)コアデンタルラボ横浜 代表取締役副社長
2011年 (株)コアデンタルラボ横浜 代表取締役社長
現在に至る



陸 誠 先生
株式会社コアデンタルラボ横浜
代表取締役

所属・認定技工士等

日本歯科技工士会認定講師
日本補綴歯科学会会員
日本歯科審美学会会員
日本デジタル歯科学会理事
日本歯科理工学会会員
日本口腔インプラント学会会員

教養課程「技工サイドからのデジタル化の現状と未来」

歯科業界におけるデジタル化の進歩は、補綴物の製作方法も大きく変化させてきており、歯科技工領域にも大きな影響を与えてきている。現在多くのメーカーより歯科用CAD/CAMや3Dプリンタのシステムが発売され、従来の手作業よりも良いものができ、さらに手作業では加工できなかった材料が利用でき、品質の均一化と作業環境の改善など多くの利点があり、もはや技工作業にはなくてはならない存在になったといっても過言ではない。インプラントシステムの普及に伴って、アバットメントへの利用にも注目が集まり、理想的な歯肉貫通部の形態が得られるカスタムアバットメントや、インプラントブリッジのフレームワーク、又、天然支台においては、ジルコニアコーピングを利用したオールセラミックスへの臨床応用もかなり臨床に根付いてきている。近年においては、高透過性ジルコニアやグラデーショントタイプのジルコニアディスクをはじめ、各種焼結前の着色剤の活用によって、ジルコニア単体でのフルジルコニア(モノリシック)クラウンの臨床応用も多くなり、かなり審美領域にまで利用できるレベルへとってきている。

専門課程「歯科技工におけるデジタルは我々をどこに連れて行くのか」

近年は、口腔内スキャナー(I.O.S.)からのダイレクトな口腔内のデータからの補綴装置製作方法に変わろうとしてきている。しかし、まだまだ各メーカーで統一された規格ではなく、互換性も少ない事から、データの取り扱いはまだ繁雑なのが現状であり、今後このあたりの整理が必要となってくる。現在の歯科界の機械化(デジタル化)の環境は、デジタルの各機器やソフトを点とすると、点がやっと点線になってきた程度で、今後、デジタルにて一直線で一貫通となる事は間違いない。「我々がどのように機械を使い、何をしたいか」という事をしっかり考えると共に、「今後、我々の手作業として残り、付加価値の高い作業はいったいどのあたりか」ということを意識し、前向きに機械化(デジタル化)へ向き合っていかなければならない。今後、歯科技工はコンピューター化(AI)により、機械化はどのように進んで行くのだろうか?また、手作業として残る部分はどこなのか、インプラントに関わる作業だけではなく、現状のデジタル化されていく技工の流れをくみながら、今私共の環境の中でどのような変化が起こっており、どのように今後の方向性を考えているかなど、皆さんと共に考えられればと思っている。